

1. **議題案名**:

パレスチナ・ガザ地区において日本のODAにより整備された施設の破壊行為に関する実態把握及び、イスラエルへの申し入れについて

2. **議題の背景**:

10月7日のハマスによるガザからの越境と攻撃によって始まったイスラエルによるガザへの空爆によって、2024年1月26日現在、2万5000人以上のガザの市民が犠牲になり、6万人以上が負傷しています¹。このうち半数は子どもと言われ、世界保健機関(WHO)によれば10分に1人のペースで子どもが犠牲になっています²。わずか100日の間に亡くなった子どもの数は、13年近く続いているシリア危機のそれにすでに追いついてしまった³ことを考えると、今般の被害の大きさを伺い知ることができます。医療施設やHumanitarian Zoneであるはずの避難所での攻撃も常態化しており、ガザの人々は短期間での度重なる避難と攻撃、寒さや飢え⁴、感染症に苦しんでいます。

ガザの空爆で人命が損なわれる理由の一つに、建物や施設の破壊行為で生じた瓦礫の下敷きになったことによる圧死があげられます。死を免れたとしても、毎日10人以上の子どもが四肢を失い、麻酔のない中、手足の切断手術などを余儀なくされているという悲惨な報告もあります⁵。また、生き埋めになっても助けに行くだけの重機や救急車もないという声が現地から日々届いています。

住居の6割は破壊され、人々は住居のみならず、医療施設、教育施設、公共施設、農業施設などの生活インフラに直結する施設も失い、被害は数兆円にも及ぶ⁶との報道がなされています。停戦後の復興にも果てしない努力と資金、時間が必要であり、またその資金は海外援助に頼る他ない状態にあって、こうした破壊行為によって失われるものは、人命や金銭的価値では測れないものも含まれます。例えば個々人の所有物の損失、地域のネットワークを形成する場所の消失、思い出・記憶の破壊、人間らしく生活するという尊厳の蹂躪を含み、破壊しつくされた街を眺める人々の心に大きな禍根を残しており、今後現地に平和を構築する上での、将来への影響は計り知れません。

¹ OCHA (2024), "Hostilities in the Gaza Strip and Israel – reported impact | Day 109"

<https://www.ochaopt.org/content/hostilities-gaza-strip-and-israel-reported-impact-day-109>

² Reuters (2023.11.11), "A child killed on average every 10 minutes in Gaza, says WHO chief"

<https://www.reuters.com/world/middle-east/child-killed-average-every-10-minutes-gaza-says-who-chief-2023-11-10/>

³ AlJazeera (2023.11.7), "Is Israel's Gaza war the deadliest conflict for children in modern times"

<https://www.aljazeera.com/news/2023/11/7/is-israels-gaza-war-the-deadliest-conflict-for-children-in-modern-times>

⁴ Reuters (2024.1.24)「ガザで飢餓のリスク、北部で「支援組織的に制限」＝WFP 報道官」

<https://jp.reuters.com/economy/M4EJIE2B5VNAZNCBID4VNVMRJU-2024-01-23/>

⁵ セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン (2024)「3ヶ月の攻撃で、一日あたり10人以上の子どもが手足を失う」

<https://www.savechildren.or.jp/sp/news/index.php?d=4367>

⁶ 時事通信 (2024.1.18)「ガザ住宅再建に2.2兆円「戦争より飢餓で死亡」パレスチナ投資基金」

<https://www.jiji.com/jc/article?k=2024011800260&g=int>

そして、このように破壊された建物の中には、日本のODAにより整備された施設も含まれているということが、関係NGO団体及び東京大学の合同調査からも明らかになっています⁷。当該調査によれば、日本・クウェート両政府の支援を通じ、国連開発計画（UNDP）により建設されたハーン・ユーニス廃水処理プラントや、パレスチナ唯一の空港であるヤーセル・アラファト国際空港などはその代表例で、中には病院も含まれています。また、NGOを通じて設置した建物を含めればその数は更に増えると考えられます。こうした破壊行為は特にガザが封鎖された2006年以降繰り返されており、大規模空爆は最低でも5回行われています。日本政府はその度にガザへの復興支援を行っていますが、再び破壊されるということが繰り返されています。

3. **議題に関わる問題点(議題に上げたい理由):**

1993年のオスロ合意以降、日本がパレスチナの発展、自立のために費やしてきたODAは、外務省によれば総額で23億ドル(3400億円)にのぼります⁸。また、今回の危機に際しても、91億円の支援が表明されています⁹。こうした日本の努力を、高く評価したいと思います。その一方で、これほどの巨額を投じてきたにもかかわらず、イスラエルとパレスチナの平和的共存はいまだなされず、特に、6回目となるネタニヤフ政権が発足した2022年末以降、西岸地区を含むパレスチナの人的被害は最悪ともいえる状況を更新していることに危機感を持って対応する必要があると考えます。そうした中で、ガザだけにとどまらず、日本が行ってきたパレスチナ支援に対する破壊行為とその被害を正しく把握し、イスラエルに対しこれら支援により整備された施設に対する破壊行為をこれ以上生み出さないための申し入れを行うことは、必要不可欠と考えています。

4. **外務省への事前質問(論点を詰めるために事前に確認しておきたい事実関係などがあれば):**

- ・ これまでに日本のODAによってパレスチナに整備された建物等のリストの開示をお願いいたします。
- ・ 上記のリストにある建物等について、2023年10月以前のガザにおける破壊状況と、被害実態に関する調査報告書の開示をお願いいたします。
- ・ (上記報告書やリストがない場合)今後調査報告書やリストを作成する予定はあるでしょうか？
- ・ また、パレスチナ全体でどのような形態の援助を実施したのか、その有効性や持続性について、包括的な評価を実施されたことはあるでしょうか？特に平和構築や破壊行為の再発防止の観点から見た支援の効果について、検証されたことはあるでしょうか？

⁷ 日本国際ボランティアセンター×東京大学大学院 渡邊英徳研究室「ガザ地区 日本支援施設の被害」
<https://storymaps.arcgis.com/stories/4c5f80999111480bbcf4a520f51cd736>

⁸ 外務省(2023)「我が国の対パレスチナ支援」 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000040724.pdf>

⁹ 毎日新聞(2023.12.18)「日本政府、ガザなどに91億円支援 23年度補正予算から拠出」
<https://mainichi.jp/articles/20231218/k00/00m/010/004000c>

5. **議題の論点 (定期協議会の場で主張したいことや、外務省に聞きたいこと):**

上述した「議題に関わる問題点」を踏まえ、今後の二国家解決案に根差した平和構築およびパレスチナの持続的発展という観点から以下4点を提案したいと思います。また、それぞれの提案に対して、現時点での外務省としての考えをお聞かせください。

【提案】

1. 日本のODAによってパレスチナにこれまで整備された施設の被害状況を正確に把握し、国民及び、全てのステークホルダーへの説明責任を果たすために、破壊された施設のリストおよび被害額を開示すること。
2. 上記にて確認された被害実態をもとに、日本としてイスラエルに対し、支援により整備された施設への破壊行為を生み出さないよう直接かつ明確な申し入れを行うとともに、イスラエルおよびパレスチナに対し、これら施設の適正な保護と再発防止のための働きかけを、継続的にかつハイレベルで行うこと。
3. 上記施設の破壊について日本から直接申し入れ・働きかけを行うことに加え、日本がG7各国とともに訴える「国際人道法の重要性」に鑑み、これらの破壊が、国際人道法違反にあたるかどうか¹⁰の確認を、独立機関を通して行うこと。
4. また、パレスチナ人の民族自決権の実現を基礎とする二国家の平和共存を目指す日本として、イスラエル軍による多くの民間人を巻き込む破壊行為の直ちの停止を申し入れると共に、即時の停戦に向けて、イスラエル、パレスチナおよび国際社会に働きかけること。

- 氏名:金子由佳
- 役職:プログラムコーディネーター
- 所属団体:公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

以上

¹⁰ 日本の支援により整備された施設が、国際人道法上保護され、直接攻撃が禁止されている「民用物」である可能性、また、破壊の原因となった攻撃が、国際人道法上禁止されている、軍事目標と文民・民用物を区別なく攻撃する「無差別攻撃」によるものである可能性などが考えられる。